

会社員時代の経験と人脈を生かす

リスク抑えるシニア起業

定年を機に起業するシニアたちは、それぞれどんな道歩んでいるのか。

長

く働き続けるうえでは、会社から離れて起業することも選択肢となる。しかし起業には

元手が必要で、失敗して老後資金を失うリスクもある。そこで重要なのが「ビジネス選び」。土地勘のないビジネスに挑むのはリスクが高い。そう判断し、過去の経験に新たなノウハウを組み合わせたのが、金子信洋さん（60）だ。

30年以上勤めたIT企業を早期退職し、2018年に企業向けのドローン導入支援を手がけるドローン・アイティーを設立（法人化は19年）。ゴルフ場の芝の状況を確認し、農薬を散布したり、工務店向けに建物の壁面の点検をしたりと、遠赤外線カメラやAI（人工知能）を用いた画像解析ソフトなどを組み合わせた活用方法を提案する。

前職では主に企業の基幹システ

ドローン導入支援

ドローンの操縦者と安全運航管理者を育成するスクールは初年度から25人が修了

金子信洋さん（60）



ム構築を手がけた。退職前に新規事業の開発に関わった際、ドローンの可能性に着目。「ITを組み合わせたソリューション提供なら、経験を生かせる」と考えた。ドローンの操縦技術や基礎知識は、JUIDA（日本UAS産業振興協議会）が運営するスクールに通って習得。事業を立ち上げると同時に、企業のドローン管理者を育てるJUIDA認定スクールも開校した。スクール運営については、前職の先輩に相談して協力を得ている。「当初は一人で運営する予定だったが、限界がある。得意な人の力を借りたほうがいい」（金子さん）と語る。

開業費はドローン購入費とスクール開校費などで計約300万円。法人化する際の登録免許税が半減する地元横浜市の「特定創業支援等事業」を活用し、スクール会場に

バッテリーセンターを借りたりして、その他の出費を抑えた。

初年度は8社の顧客を獲得。年商は2000万円弱と出だしは順調だ。「事業を伸ばしたいが年齢もあるし、無理はしない。身の丈に合わせて取り組む」と語る。

ドローン学校で学び
IT企業の経験を融合